

熊本市西区の専照寺。本堂はすでに解体され、更地となっていた（5月18日撮影）。



誇りだった本堂が更地に

熊本市西区・専照寺

体育館のように大きな本堂が同寺の門徒にとって誇りだったという。松本正智住職(49)は「本堂が倒壊する恐れがあったので、被害拡大を防ぐため4月25日から解体工事に入った。前を向いていくしかない」と更地を見ながら淡々と語った。その口調とは裏腹に、ほほには一筋の涙が伝わる。

坊守の明代さん(49)は「慣れ親しんだ本堂が解体されていくのを見て、高齢の門徒さんも泣かれ、私も心が折れそうになった。門徒さんが『一緒にがんばっていきましょう』と言ってくれさうになり、少し前向きに考えられるようになった」と語った。